

2007年(平成19年)3月1日(木)

「第7回 森林再生小委員会」が釧路市交流プラザさいわいで開催されました。

■開催概要

「第7回森林再生小委員会」が平成19年3月1日(木)に釧路市交流プラザさいわいにおいて開催されました。委員会は、構成委員39名(個人10名、団体18団体、オブザーバー4団体、関係行政機関7機関)のうち、16名(個人5名、団体6団体、オブザーバー1団体、関係行政機関4機関)の出席により開催されました。会議では、先ず第3期の小委員長と小委員長代理の互選が行われ、第2期に引き続き小委員長に北海道大学大学院農学研究院の中村太士教授、小委員長代理に酪農学園大学環境システム学部生命環境学科の金子正美教授を選出しました。この後、議事に入り雷別地区の森林再生や雷別地区自然再生事業実施計画(案)、達古武地域森林再生事業などについて協議が行われました。この他、民間団体が再生事業を実施する場合の費用の問題や土砂流出防止の技術交換について活発な意見交換が行われました。



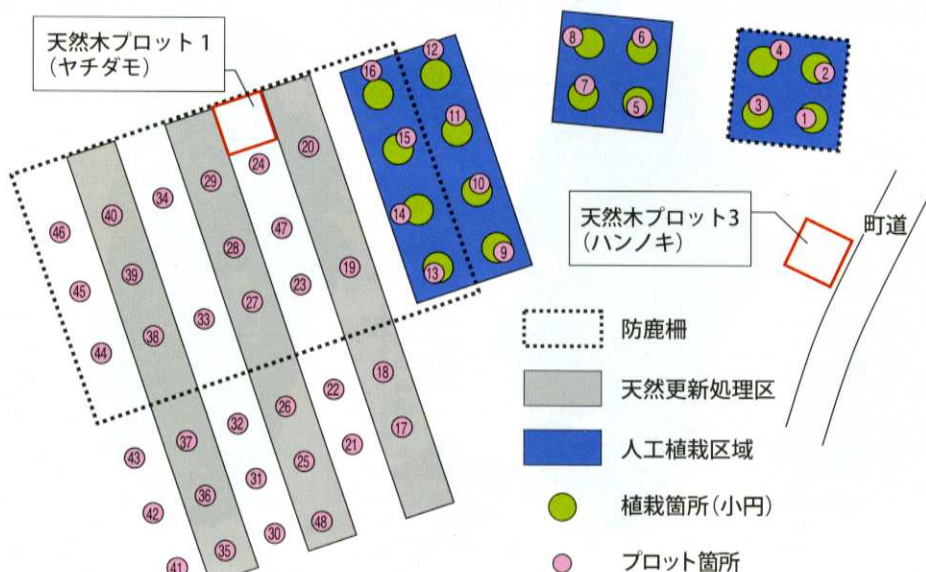
第7回 森林再生小委員会(平成19年3月1日)



雷別地区の森林再生について

会議では、雷別地区の森林再生について協議が行われ、先ず、事務局から、平成18年度雷別地区の調査・検討結果と説明が行われました。この後、討議に入り植栽箇所の樹種の選定や防鹿柵の素材や高さなどについて意見交換が行われました。

◆試行実験の実験区概要



このようなことが話し合われました

- 委員長 ●委員 ●事務局
- 地がきについては現在生きている木の根の際まで行ったのか。
- 現在生きている木と伐根の周りはある程度避けた。
- ササの地下茎の除去については刃物できっちり切断したのか、引き抜いたのか。
- 今後ササは地下茎を伸ばして人工植栽した所に侵入してくるはず。地下茎の処理によってササの回復が変わるので、処理方法ごとに検証してデータを取るのが良い。
- 重機(バックホー)により天然更新区の境目まで地がきした。刃物等では切断していないため地下茎が残ったところもある。
- 地下茎を多少残して地がきをしているような場所もあるので、その処理の仕方によってササの回復がどう違うのか見ていく必要がある。
- 天然木プロット3(資料P4)は元々ケヤマハンノキの稚樹が自然に生えていたのか。
- 試行実験区は元々ヤチダモ、ハルニレなどの湿生植生だったのか、ミズナラなどの比較的乾燥した植生だったのか、どちらの植生も混在していたのか。
- 天然木プロット3ではケヤマハンノキの稚樹がかなり生えていた。

※以下、前頁「雷別地区の森林再生について」の続き。

このようなことが話し合われました

●委員長 ●委員 ●事務局

- 試行実験区はミズナラが多いところもハルニレが多いところもある。
- 市民参加の作業上、植栽箇所に対する樹種選定を細かく設定することは実際難しい。
- 樹種によっては植栽する場所に対して生長していく上で向き不向きがある為、単純に樹種同士の生長を比較出来ないのではないか。
- 今後は立地に応じた植栽木の選定についても考慮してもらいたい。
- 地がきをした場所に生えていたササの種名と高さは。
- 防鹿柵の素材は。高さや強度は十分か。
- オオクマザサで1メートル未満。
- 防鹿柵の素材は高密度の特殊なポリエチレン製で、シカに対して十分な強度を持つがキツネやウサギには噛み切られる。今のところシカが防鹿柵を越えての中へ入った形跡は無い。
- 防鹿柵は低くないのか。シカが侵入する事により収集したデータが使えなくなる恐れがある。せっかくの実験が無駄にならないように北海道の野生生物室に相談した方が良いのでは。

- 北海道で行われている防鹿柵の施工は農地に侵入するシカを完全に排除する必要があるため高さが必要である。雷別地区では山全体がシカの生息域であり、ごく一部のみを防鹿柵で囲っているためシカが避けて通るのではないかと考えている。今の高さでもシカが侵入する可能性は低いと考える。
- 今回の実験を行うにあたって野生生物室からもコメントを受けており、とりあえず今の高さで良いと思う。しかし、実験的にやった結果から必要であれば防鹿柵の高さについても検討して欲しい。
- 実験区以外の地がきのみを実施する天然更新箇所と人工植栽箇所については防鹿柵を設置するのか。
- 実験区以外の天然更新箇所は範囲が広い為、防鹿柵の設置は考えていない。ただし、基本的に筋状の地がきを行うので、シカが侵入しにくいようにトドマツの立ち枯れたものなどを使って障害物を置くことなども考えたい。人工植栽箇所についても、全部を囲うというのは難しい。

- 我々市民団体が裸地の回復を目的に行っている達古武地域の植栽地では、植栽後に苗木をネットで囲わずにいるとボロボロに被害されるため、簡易的なシカ対策として支柱に竹を使った高さ2メートルのネットを張っている。これならコストも低く、シカにより破壊されてもすぐに直すことができる。今のところシカの侵入した形跡はない。
- 天然更新箇所に関しては範囲が広く費用が掛かるため、全てにシカ対策をするのは無理だが、対策実施箇所と対策無実施箇所のデータを比較できるメリットがある。
- 人工植栽区に関しては費用が掛かってシカ対策をして正確な苗木生長のデータを取るのが良い。
- 達古武地域で行われたシカの被害と防鹿柵の実験結果を参考にしたい。
- 植栽された苗木は被害を受ける可能性が高いので、被害を受けた場合のアクションプランを考えておいた方が良い。

雷別地区自然再生事業実施計画(案)について

次に雷別地区自然再生事業実施計画(案)について協議が行われました。各種施工方法について活発な議論が行われました。その結果、雷別地区自然再生事業実施計画(案)は、今回の議論を踏まえて微修正したものを小委員長が確認した上で、次の協議会に報告することになりました。



事業実施予定箇所(293林班のトドマツ立枯被害地)



森林再生の目標(郷土樹種からなる広葉樹林)

◆ 水質保全機能の評価を行った区域と結果



